

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で



学校だより

2月号

HP アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/>



横浜市立谷本小学校
令和5年1月31日

「〇〇週間」のその先

副校長 佐藤 万里子

大寒が過ぎ、天気予報では気象予報士が氷点下の気温予想を伝えるにつれ、春が待ち遠しく感じられる今日この頃です。先日4年生が、冬の植物の様子を観察していました。職員室前では、水仙の花が咲いています。体育館横の花壇では、菜の花が日に日に成長しています。気温の低さに加えて風も冷たく真冬ではありますが、春の準備も始まっているのを感じます。



学校では「読書週間」や「給食週間」など、その時々集中して取り組むことを決めています。12月には、「人権週間」を設けて、各学年が人権を意識するよう指導を行いました。

先日、全国中学生人権作文コンテストの作文集が届きました。皆自分自身の経験から思うこと等を文章にしていました。「気づきたい『笑顔』」という作文では、中学校3年生が小学校2年生のときに心無い言葉により友だちを傷つけてしまったことについて、更にその出来事をすぐには正直に話せなかったことについて、「一度も忘れたことはない」「一生の後悔を胸に刻み」などと表現しています。やっとの思いでお母さんに話すと、「相手は笑うしかできなかつたかもしれないでしょ。笑っていたとしてもその子は傷ついていたと思うよ。」という言葉が返ってきたそうです。

この作文集には、中学生が考える様々な視点からの人権に対する考えが掲載されています。「〇〇週間」が終わると意識が薄れていきがちですが、学校教育の場で、何度となく機会を作り、子どもたちと共に考えていくことの必要性を感じます。



1月の中旬に駅前の保育園に通っている小さなお子さんたちが、一時避難場所となっている本校まで訓練のために来校しました。おそろいの防災頭巾をかぶり、保育士さんのお話を真剣に聞いている姿がかわいらしかったです。1月26日と27日には、幼保小交流活動の一つとして、近隣の幼稚園児や保育園児が来校し、小学校生活の体験をしました。ランドセルを背負ったり、1年生が校内を案内したりするなど、コロナ禍で中止を余儀なくされていた幼児との交流も再開することができました。1年生が、お兄さん・お姉さんとして、優しくお世話をしていました。